

平成22年10月24日

一紅会 歴史研究会 「幕末維新の旅」

房総の地に生きる

—駿河遠州諸藩士の維新—

渡辺房男

○ 新政府の徳川家処分

慶応4年（1868年）4月、東征軍の江戸城接收。

閏4月26日、田安亀之助（後の徳川家達）が徳川宗家を継ぐ。

5月15日、上野彰義隊の敗北。一部の旗本は宇都宮、東北、
北海道に連戦

5月24日、徳川家の領地として駿遠70万石が与えられる。

8月15日、亀之助が静岡藩主として駿府城に入る。

○ 当時の駿河、遠州の諸藩と転封

7藩の領地があったが、房総の地に国替えを命じられる。

沼津藩（水野家）5万石	_____	市原市
小島藩（滝脇松平家）1万石	_____	君津市
田中藩（本多家）4万石	_____	白浜町
浜松藩（井上家）6万石	_____	長南町
掛川藩（太田家）5万石	_____	柴山町
横須賀藩（西尾家）3万5千石	_____	鴨川市
相良藩（田沼家）1万石	_____	富津市

7藩の藩士家族、約2万5千人が、明治元年4月かで移動。
幕臣たちと7藩の藩士たちの大移動が始まり東海道を行き
交う。

○ 房総の諸藩の幕末維新

上総と下総 (江戸を中心として・・・)
(上総に以前から存在した藩)

久留里藩 3万石 (君津市)	黒田家
新政府に恭順	
飯野藩 2万石 (富津市)	保科家
一部藩士が会津で抵抗、処分	
佐貫藩 1万6千石 (富津市)	阿部家
抗戦し処分される。	
鶴牧藩 1万5千石 (市原市)	水野家
恭順して維新後に加増	
一ノ宮藩 1万3千石 (一宮町)	加納家
恭順	
大多喜藩 2万7千石 (大多喜町)	長沼・大河内松平
抗戦し処分	
請西藩 1万石 (木更津市) 林家	林忠崇 (ただたか)
徹底抗戦	

(安房の諸藩)

勝山藩 2万石 (鋸南町) 酒井家
恭順 (一部藩士は抗戦)
館山藩 1万石 (館山市) 稲葉家
藩論は二分、最後には恭順

明治4年の廃藩置県の際の状況

上総国 12藩
安房国 3藩

(遠州横須賀の西尾家が花房藩として在籍)

明治4年7月に各藩はそのまま、県となるが、明治4年
11月に合併し、木更津県となる (石高52万石、人口
57万4682人、戸数11万508戸
明治6年 千葉県成立)

○ 請西藩 1 万石（木更津市）林家 林忠崇の反抗

鳥羽伏見の戦いの後、徹底抗戦を決意。
旧幕府兵 3000 人が江戸から陣屋に現れる。
さらに、遊撃隊も木更津に出現。忠崇は遊撃隊と同盟。
幕臣とともに江戸湾を渡り、官軍と徹底抗戦。
小田原、箱根での戦闘。
さらに、会津戦争。
その後、仙台で降伏。部下 19 人とともに。
その後、東京府の官員になる。
昭和 16 年、94 歳で死去。
最後の大名として世を去った。

○ 房総移住の大名たちのその後

例として、沼津から移住した水野家 5 万石の歴史

千葉県市原市菊間（JR 内房線 八幡浜下車）

1) 水野家

徳川家康の従兄弟 水野忠清の家系に連なる。
寛永 19 年に信濃松本藩 7 万石の城主となった
水野忠恒が殿中で刃傷事件を起こし、旗本に格下げ。
その子忠友が将軍家重の側近となって活躍。
安永 11 年、沼津の初代藩主となり、幕末まで続く。

2) 維新時の藩主 水野忠敬（ただのり）

17 歳 恭順の意思を表明。
沼津から房総の市原郡内 2 万 3 千石
さらに安房に一部領地。
新政府から玄米千石、金 1 万 5 千両が下賜される。

3) 藩士の数

沼津在住 385 軒
男 1181 人 女 1188 人
江戸詰め 97 軒
男 170 人 女 156 人

- 4) 藩校
沼津時代以来の藩校「明親館」を建築。(明治年)
明治4年11月 木更津県に引き渡される。

- 5) 藩士の移動
家屋の解体、駿河湾を舟で運び、市原郡八幡宿に揚陸。
藩士たちも、舟で移動するものも多い。

- 6) 旧菊間藩庁(市原市菊間)
現在の菊間忠魂碑の地に建設。
傍らの稲荷神社跡の碑には、
藩主子孫の水野忠亮の忠魂碑は、数少ない菊間藩遺構である。
現在、JR内房線で八幡宿駅下車。
車で15分程度の距離にある。

- 7) 新坂道標
菊間藩主となった水野忠敬が造った道、
新坂(しんさか)を記念したもの

○ 菊間藩時代のある騒動。

三河国での一事件。

明治3年秋、菊間藩の大浜出張所の服部小参事による神道強要政策に抗議する浄土真宗の僧たち。藩の政策に従った少数の真宗寺院への抗議行動が勃発。

農民たちの一部が、その神道化策をキリスト教に改宗させる強要策と誤解した。

僧たちと行動を共にし、酒に酔って藩役人を殺害。後に、政府による取調べが行われ、僧と農民の2人が処刑された。

○ 明治4年7月14日の廃藩置県の布告

わずか4年足らずの歳月のうちに菊間藩は消滅した。菊間藩は菊間県となり、水野忠敬は知事を罷免されて東京に移住。

その後、明治6年、新たに生まれた木更津県に編入。以前から、菊間藩士たちは、領内の荒れた土の開墾。各藩士は、4反歩から6反歩を開墾。米作りと茶の栽培を実施。

廃藩置県後の明治5年、開墾した茶畑は3町9反になって、ひとつの結社を作る。

参加士族は、110人。

明治7年には、茶畑は17町余に広がる。

○ その他の菊間藩士たち。

明治10年までの就職先。

官吏 48人、巡査 7人、軍人 6人、

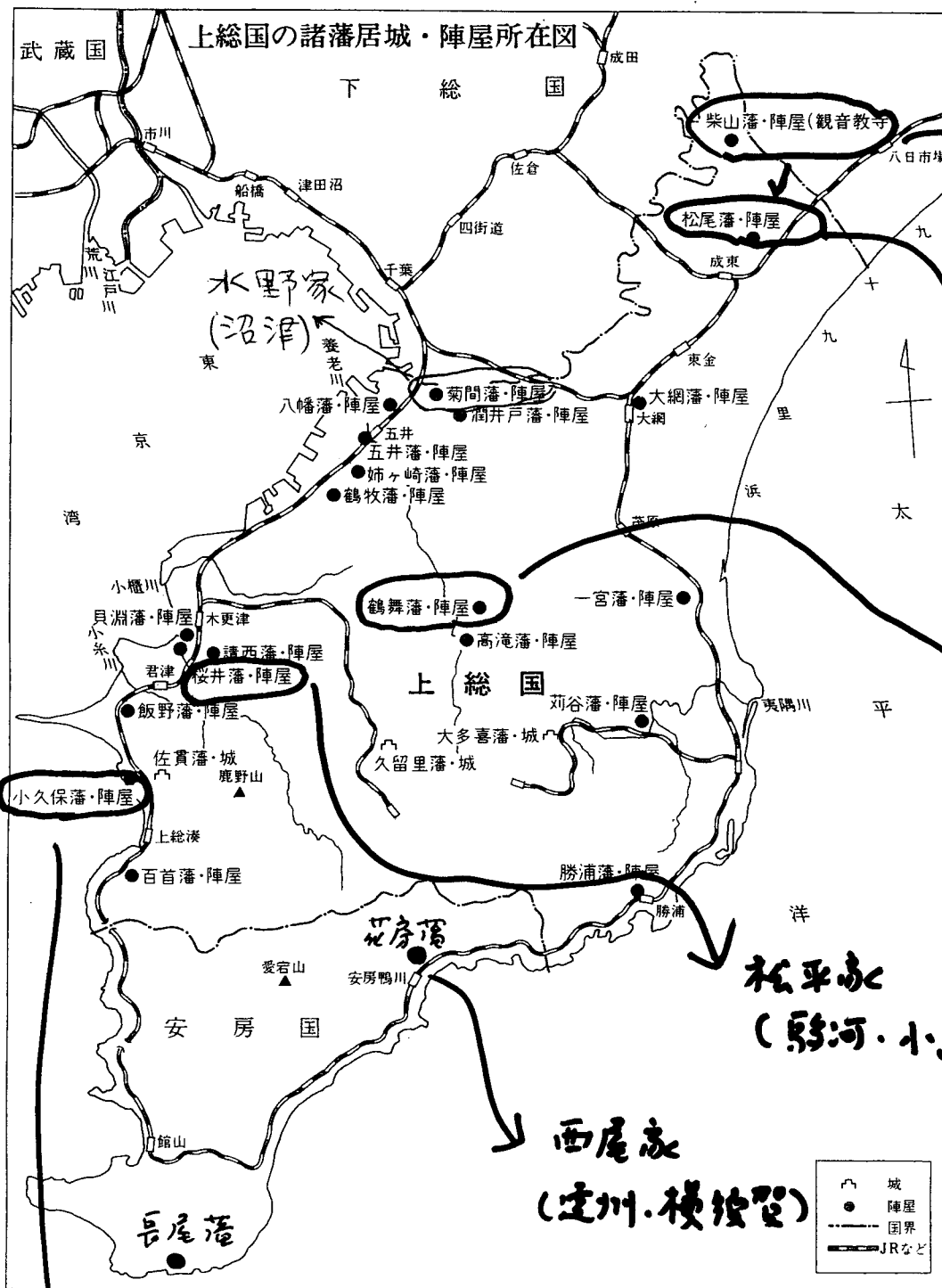
区長 5人。

その他の藩士、東京府へ10人、静岡県へ15
筑摩県、足柄県、浜松県に各1人。

○ 明治45年の調査によると、

藩士640戸の内、250戸はその後の所在が不明。

(以上)



太田家
(枳川)

井上家
(湊石)

松平家
(駿河・小島)

西尾家
(定州・横按型)

本多家
(駿河・田中)

田沼家 (定州・相良)